

## 8 報告会 要旨



### ■「道」分科会コーディネーター 浜松市 鈴木市長

「道」分科会につきましては、二つある推進方針に基づき御意見をいただいた後に、3番目に全体としての御意見をいただきました。

まず、推進方針1「人とももの交流促進」には、三遠南信自動車道は災害時における太平洋沿岸部と内陸部を結ぶ命の道、支援の道であり、非常時を意識した交流機会設定の重要性や、三遠南信自動車道と国道151号のダブルネットワーク化推進の必要性、また三遠南信地域の南北軸の南端を渥美半島で終点とすべきではなく、紀伊半島から四国方面へのアクセスは国土全体から見ても必要なことであり、三遠伊勢連絡道路についても考慮すべきであるとの御意見がございました。

次に、推進方針2ですが、「情報の交流促進」につきましては、特に中山間地域においては、光ファイバーに代表される高度情報通信基盤の整備は必至であり、大規模災害時における各地域の役割分担を明確にし、その情報を圏域内で共有しなければならない、あるいは、情報拠点として期待される道の駅の連携を重点プロジェクト化したい等の御意見がございました。

最後に、基本方針である「中部圏の中核

的都市圏となる地域基盤の形成」につきまして、戦略的に道路をつなぐグランドデザインやマスメディアの県境を越えた連携の重要性が指摘されました。

また、地域の特徴や強みを生かした産業づくりとともに、地域の産業競争力を高める戦略的な企業誘致や地域連携による産業振興も必要である。それから、中部圏の中核的都市圏となる地域基盤の形成は、産業の国際競争力を高め、三遠南信地域間の交流促進など、地域振興に与える効果が大きく、重要である。さらには、道の付加価値化が必要であり、特に動く商店街ともなる軽トラ市は、三遠南信地域に集積が大きく、ネットワーク化が有効であるとの御意見もありました。そして、自動車産業の先を見越し、三遠南信地域内への充電インフラの戦略的な設置を検討すべきとの意見等がございました。



### ■「技・人」分科会コーディネーター 静岡文化芸術大学 池上副学長

この分科会では、「技」と「人」という二つのテーマについて、議論を行いました。「技」については、基本方針として「革新を取り込む産業創造圏の形成」、推進方針として「既存産業の活力増進」、「産業創造力の強化」という二つの柱がございまし

た。

「人」については、基本方針として「地域の持続的発展に向けた人材集積地の形成」があり、推進方針として「次代を担う人材の育成・確保」、そして「多文化共生社会の形成」という二つの柱について議論をしました。

この二つのテーマについて、前半、後半で分けたのですが、結果的にはその二つが有機的に結びついた議論となりました。例えば「技」につきましては、一つだけ産業を絞り込んで、選択と集中を図り、その産業が既存産業を引っ張っていくような仕組みがつかれないだろうかとの御意見がありました。

また、三遠南信地域は、現実問題として人が流出している地域であることを前提とした対応が必要であるとの御意見があり、とりわけ女性の働く場をきちんと求めていくことが大事ではないかとの御意見がありました。ただ、それは単に20世紀的な方法で工場を誘致するという話ではなくて、女性たちが生き生きとその地域での暮らしを満喫して生きていける、そういった新しい働き場の形成が大事だとの御意見がございました。

また、まちづくりの人材として、外の知恵をどんどん入れていく、あるいは外のネットワークとつながっていく、地域を外に開いていく視点も大事だとの御意見がございました。住民団体の方からは、100年後も幸せな暮らしができるような視点が重要で、自然、風景をきちんと残していく、またコミュニティがつながっていく必要があるとの御指摘をいただきました。その延長線上で、どうしてもこの三遠南信地域は、道路が第一の関心になって、二次産業の発展に力点が置かれるのですが、実は農林水産業に新たな価値を見出すことも大事ではないかとの発言が多々ございました。工業

やサービス業の視点を入れた6次産業化の方向と同時に、農的な暮らしのよさを改めて見出すような視点を打ち出していけば、そこに例えば都会の人たち、あるいは女性たちが新たな活躍の場を求めて地域に残り、あるいは外から入ってくるのではないかとの御指摘をいただいたわけです。

人材育成の大切さについても、議論が盛り上がりました。具体的などころでは、高校の先生方に地域の企業を知ってもらう、親子の企業訪問など具体的な顔の見える関係で、地域の人々と地域の産業をつないでいく工夫が大事ではないかとの御意見がありました。とりわけ次世代を担う子どもたちにこの地域のことをどうやって知ってもらうかという点が、もう一つ大きなポイントになったわけです。具体的などころでは、林間学校、臨海学校の交流を図ることや、三遠南信地域共通の副読本を作り、この地域の価値を次の世代に伝えていこうとの提案もいただきました。

何よりも強く皆さんから求められたのは、SENAの中に事業部門を立ち上げて、実動部隊として職員を配置することでした。そうして新たな施策の展開をやっていかないと、次の10年間も同じことを繰り返すのではないかとの御指摘を住民団体の方からいただいて、私ももっともだと感心した次第です。



■「風土」分科会コーディネーター  
法政大学 高柳教授

まず推進方針1「地域資源を活かした広域観光の推進」という点で、この地域には、大変豊かな地域資源がある。例えば山のような自然、地形、温泉、あるいは食べ物、そして伝統的な祭りや花火、こういった人を呼ぶに値する豊富な資源があるという点で、いろいろな紹介がございました。そういった地域資源を単一の自治体ではなく、広域でどのように発信、連携していけるのかという課題に対し、例えば広域観光ルートの開発やその広域マップの作成、スタンプラリーの実施といった具体的な提案もなされました。その一例として、三河地域の「みかわ de オンパク」が紹介され、この仕組みはもっと広げられるのではないかと御意見がありました。

次に、推進方針2「地域資源の保存と継承」ですが、伝統文化が高齢者によって担われていて、これからどのようにそれを継承、維持できるのかという点について、例えば高校生を初めとした若者に伝えていく、そういう若者の人材を養成していくことが語られました。

それから、この地域は、形のある、例えば重要伝統的建造物群保存地区ではなくて、形のない伝統文化の継承になります。それを今のうち、例えば文書や映像で記録する取り組みについても、いろいろ御紹介がありました。後世にいかに残していけるかという点で話し合いがなされました。

その二つを踏まえて、基本方針は「塩の道文化創造圏の形成」ですが、地域資源をどのように組み合わせる新たな価値をつくっていくのか、本質的な価値を見出していくのかという点で、行政の参画のあり方、あるいはその担い手となる部署なり人材をきちんと置いていくことについても語られました。

最後に、これは本質的なことかもしれませんが、この風土の分科会では、基本方針として、「塩の道文化創造圏」という言葉がうたわれていますが、果たしてその塩の道という言葉が三遠南信地域全体に共通した言葉になりうるのかどうか、「塩の道」という言葉で全体を括るには少し無理があるのではないかと御意見もありました。



■「山・住」分科会コーディネーター  
豊橋技術科学大学 大貝理事・副学長

最初に、推進方針1として、「流域定住推進モデルの形成」について意見をいただきました。その冒頭に、静岡文化芸術大学の先生、そして学生から、浜松市天竜区のある集落を対象にした調査結果を報告いただきました。非常に興味深い報告でして、これまで限界集落は、いわゆる高齢化率が50%以上で、人口がどんどん減っていく、いずれ消滅するだろうと言われていました。その捉え方を少し変えて、家族とのつながりという視点から、その集落の維持を考えてはどうかとの具体的な提案がありました。

つまり、集落に住まれている方の子どもがどこに住んでいるかという点を調査すると、ほとんどの人が2時間以内の地域に住んでおり、毎月親元に戻られているそうです。そういった点を踏まえると、今後集落問題を考えたときに、この家族のつながりが非常に重要であると提案をいただきました。

続きまして、行政の方から御発言をいただきました。一つが、県境を越えた婚活事業の提案です。最近、未婚者が非常に増えており、こういった方の婚活を進めるイベントを、県境を越えて開催したらどうかというものです。

また、南信州広域連合で進んでいる具体的な取り組みとして、ロシアにある菜園付きのセカンドハウス「ダーチャ」の企業版を当地域で取り組むのはどうかとの提案もありました。

それから、中山間地域での遊休施設の有効活用策として、平時は週末リゾートや二地域居住の拠点にし、非常時に緊急避難地として活用できる施設に転換していかどうかの具体的な提案をいただいております。

次に、推進方針2「自然資源の循環利用の推進」について意見をいただいております。

この議論は、ずっと以前からある議論ですが、森林の持つ魅力を最大限に発揮する取り組みとして、里山林、生産林、環境林といったエリア分けを行う森林のゾーニングの構築の提案、またドローンを活用した地域活性化事業などについて提案をいただきました。

最後になりますが、この「山・住」の基本方針について、中川村と豊橋市から御意見をいただいております。特に、安全安心な広域生活圏を形成するためには、南海トラフなどの来たるべき大災害の備えとして、いわゆる上流域と下流域、上流域による沿

岸域の支援内容を、今後具体的に検討していくことが極めて重要であると意見をいただいております。

平成 19 年度の第 15 回サミットで合意した「三遠南信地域連携ビジョン」が、策定以来 10 年の節目を迎えます。

SENA を平成 20 年に設立して以降、このビジョンを柱として、内閣府の「地域社会創造事業」におけるインキュベーション事業やインターンシップ事業、国土交通省の「広域地方計画先導事業」における三遠南信ガイドブックの発行や「官民連携主体による地域づくり推進事業」として産学官人財育成円卓会議等を開催したほか、地域資源情報の発信、航空消防に関する応援協定や災害時の相互応援協定の締結などに取り組んでまいりました。

この間、三遠南信自動車道や新東名高速道路といった高規格道路整備の進展、リニア中央新幹線整備における飯田市への長野県駅（仮称）設置の決定、東日本大震災を契機とした防災体制の強化、見直しといった数多くの社会環境の変化がありました。

また、今後の人口減少や少子高齢化の進行、リニア中央新幹線東京一名古屋間の開業、第 4 次産業革命など三遠南信地域を取り巻く大きな環境の変化を捉え、新たな 10 年を展望する第 2 次三遠南信地域連携ビジョンの策定に向けて、本日、議論をいたしました。

まず、新ビジョン策定に当たり、以下を目的として掲げました。

- 1 交通基盤整備の進展に伴う交流・連携活動の深化
- 2 産業構造の転換期を先取りする産業創造力の強化
- 3 三遠南信地域特有の地域資源の活用による交流人口の拡大
- 4 流域住民が共生する県境を越えた広域生活圏の形成
- 5 三遠南信地域の持続的発展を支える人づくり

そして、この新ビジョンのテーマを

### 「三遠南信流域都市圏の創生～日本の県境連携先進モデル～」とし、

次の 3 つの視点から地域像を描いてまいります。

- ① リニア中央新幹線や東海道新幹線、高速道路、港湾、空港などの交通基盤を活かし、「大都市圏・世界と結ばれる広域連携都市圏の形成」を進めます。
- ② 高次都市機能の集積が進む名古屋大都市圏との機能連携を図り、「中部圏での中核的な都市圏の形成」を進めます。
- ③ 上下流域が広範な分野で有機的な連携を図り、「流域循環圏の形成」を進めます。

今後は、本日のサミットでの議論を踏まえ、具体的な施策や事業などの検討を進め、来年度のサミットにおいて第 2 次三遠南信地域連携ビジョンの合意を目指します。

これらの成果をここに集うすべての主体が共有し、第 25 回三遠南信サミット 2017 in 遠州のサミット宣言といたします。

SENA 構成自治体に係る連携体制の強化については、一つ一つの市町村の主体性を尊重しつつ、広域連合設置を見据えた第一歩として、平成 30 年度中に連携中枢都市圏などの制度活用を検討してまいります。

平成 29 年 10 月 30 日

三遠南信地域連携ビジョン推進会議

三遠南信サミット 2017 in 遠州





## ■ 次回開催地域代表挨拶

### 豊橋市 佐原市長

皆様、こんばんは。次期開催地の豊橋市長の佐原でございます。

本日の「第25回三遠南信サミット2017in 遠州」には、たくさんの皆様に御参加いただきました。そして素晴らしいサミットを実施していただき、浜松市の関係者の皆様、商工会議所をはじめとする経済界の皆様、大学関係者の皆様に心から感謝を申し上げたく存じます。

さて次回は、25回という四半世紀の節目を迎えた今回のサミットに続く26回目のサミットということで、新しい四半世紀の1歩目を踏み出すサミットになりますし、新ビジョン策定の提案をさせていただくという、非常に難しくもあり、わくわくするような部分も秘めたサミットになると考えています。浜松市のように素晴らしい施設ですばらしいおもてなしができるかどうかは、はっきり言って自信のないところですが、しっかりと皆様方の記憶に残るサミットにしていかなくてはいけないと覚悟を決めているところです。

これから10年の新ビジョンを考えるに当たって、たくさんのことが思い浮かびます。おそらく、10年後にはリニア中央新幹線ができていでしょうし、三遠南信自動車道もミッシングリンクがなくなり、我々のこの地域がしっかりとつながっていると思います。そして、もしかしたら浜松三ヶ日・

豊橋道路もつながっているかもしれませんし、三河港の蒲郡地区には、毎週のように客船が入ってにぎわっているかもしれません。そのような、わくわくするようなこれからの10年を思い描いていますが、もう一方では社会も大きく変わろうとしています。IoT や AI などの様々な技術の進歩によって、私たちの社会の構造や働く場の姿が大きく変わろうとしています。また、ラグビーワールドカップや東京オリンピック・パラリンピック、我々の地域においてはアジア大会など、国を挙げての大きなイベントもたくさんあります。そのような、すばらしくもあり、難しくもある10年に対して、この三遠南信地域が、三遠南信地域らしい魅力あふれる新ビジョンを打ち出していくために、これから1年間、関係する皆さんと必死に汗を流し、知恵を絞り、頭を熱くして考えて議論しながら進めていきたいというように強く思っています。

すばらしい第26回三遠南信サミットにしていきたい、そのために精いっぱい努力をしてみますので、ぜひ関係者の皆様には、御指導、御支援を賜りますよう、そして、当日たくさんの方に御参加いただきますように、心からお願い申し上げます。私からの挨拶とさせていただきます。来年も頑張ります。よろしくお願いたします。